



大学院教育改革支援プログラム (大学院 GP) の採択について

医歯学総合研究科長 前田 健康

大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻は平成20年度文部科学省事業「大学院教育改革支援プログラム(いわゆる大学院 GP)」に採択されました。歯学部・口腔生命科学専攻にあっては、平成17年度の大学院教育イニシアチブ(平成18年度まで)、平成18年度の特徴ある大学教育支援プログラム(平成20年度まで)に続き3件目の獲得となり、学部教育から大学院教育にわたるGPを採択しているのは本学でも歯学部だけであります。今年度、医療系には全国から65件の応募があり、15件の採択(採択率23%)でした。

「新時代の大学院教育」(平成17年9月5日中央教育審議会答申)で「大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)を図る」ことが提言され、文部科学省では平成18年度から5年間の体系的・集中的な取組計画「大学院教育振興施策要綱」(平成18年3月30日)を策定されています。この中には「グローバルCOEプログラム」が含まれており、その獲得に向け、各大学が努力していることはマスコミにもよく取り上げられていますので、ご存じの方も多いことと思います。「グローバルCOEプログラム」が、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・発展させるため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を行っていくプログラムであるのに対し、「大学院教育改革支援プログラム」は、大学院教育の実質化(教育課程の組織的展開の強化)を推進することを目的として、大学院博士課程・修士課程を対象とした優れた組織的・体系的な教育取組に重点的な支援を行うものです。

今回、私どもが申請・採択されたプログラムは

「プロジェクト所属による大学院教育の実質化」であります。新潟大学大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻は、「口腔科学に関する教育・研究に取り組み、自ら研究課題を開拓し、独創的な研究を遂行する能力のある研究者及び科学的基盤をもち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業人を育成する」ことを目的として設置されました。本プログラムは高度医療および保健指導を推進できる専門的医療職業人の育成という人材育成目標達成のため、生命科学研究の基礎的知識、国際化に必要な英文読解・執筆能力、歯科医学の学際的理解・応用力、専門医取得につながる歯科臨床技能、教育・研究者としての基礎能力、リーダーシップに関わるマネジメント、コーチング能力を身につけさせることを目的として立案されました。

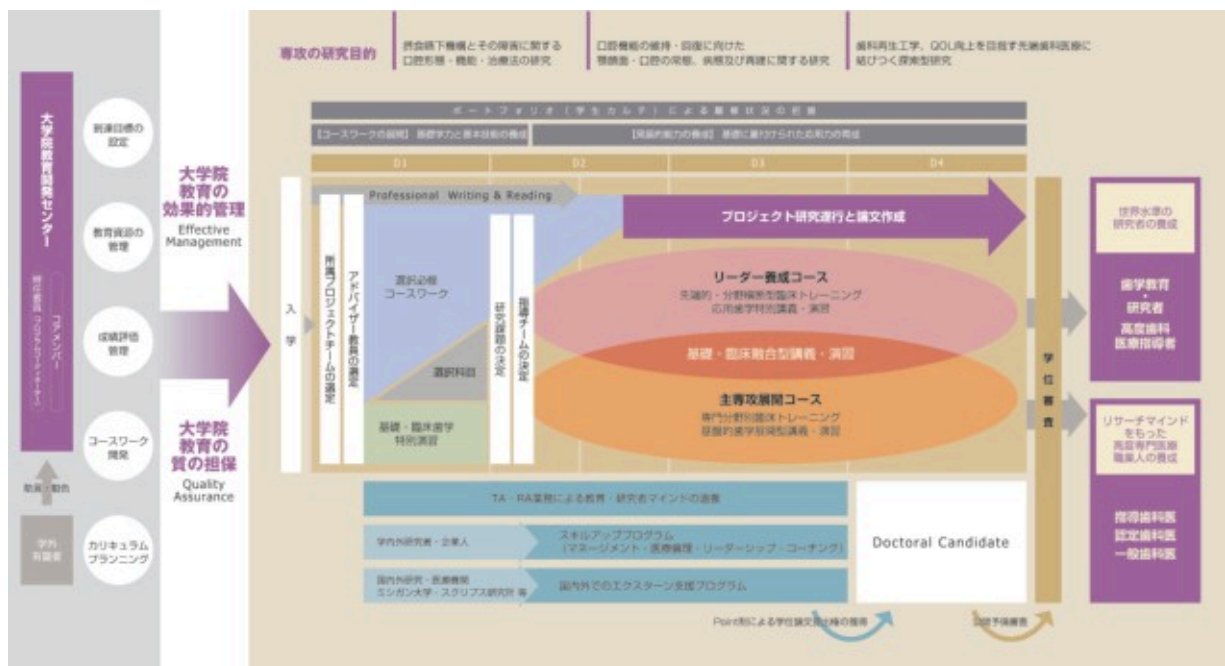
現行の大学院カリキュラムは研究科の理念・目標の下、立案、運営されていますが、その教育内容・方法は各指導教員にゆだねられ、いわゆる徒弟制度的な教育システムで、学生主体というより、どちらかといえば教員主導型の教育システムでした。近年の歯科医師臨床研修の必修化により、医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻の入学希望者のほとんどが臨床志向となり、これを大別すると、①大学等の教育研究機関や国際・地域歯科保健機関で歯科医療・医学のリーダーとして自立できることを望む学生と、②臨床研修に継続した一般歯科医師として必要な特定分野の教育を望む学生となっています。特に社会人入学をする学生は②を希望してくる者がほとんどであります。本プログラムでは専攻設置の目的である「科学的基盤をもち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業

人」の育成を目指すために、口腔生命科学専攻内に大学院カリキュラムの立案・実施・管理および教育指導体制を構築する大学院教育開発センターを設置し、このセンターの一元管理のもと、大学院歯学教育の実質化を図ります。すでにこのセンターは設置済みで、特任准教授1名、特任助教2名および非常勤事務職員を配置するとともに、教授会で選出された教員がその任にあたっています。本プログラムでは、教育課程を、①研究者並びに歯科医療・医学の指導者養成を目的とする少人数の学生向けの新教育課程である「リーダー養成コース」と、②従来型教育課程を基盤とした「主専攻展開コース」に分け、学生の所属を、教員個人指導になりがちであった分野所属型から本専攻で推進している3大研究プロジェクトチームとし、ここで複数の指導教員による学際的教育を推進することとします。これらのことは現在専攻内で学際的に行われている研究活動を大学院教育とリンクさせ、大学院教育の組織展開をはかることを意味します。

本教育課程は、基礎学力と基本技術の養成を目指したコースワーク、英語教育、基礎特別演習からなる初期教育課程（両コース共通）と両コース共通科目とコース独自の分野横断的（学際的）な講義・演習を展開する後期教育課程から構成することとしました。初期教育課程が修了後に指導教

員チームを作成し、研究課題を決定したのち、学生の希望と指導教員の協議により、個別カリキュラムを編成します。カリキュラム編成にあたっては大学院教育開発センターの助言のもと段階的履修が可能な個別のカリキュラムとします。講義・演習のカリキュラム編成の基本は基礎・臨床融合型、学際的教育内容とし、プロジェクト研究チーム所属教員が講義・演習を行うこととしています。

また、従来の大学院教育で欠けていた、総合的な臨床技能教育を行い、その臨床実績の評価のために、ケースごとのレポートの作成を義務づけ、それを基礎資料として修了時に臨床能力を担保した認定書を授与することとしています。さらに、TA・RA業務を担わせることで教育・研究活動の実績を積むことにより教育・研究者マインドを涵養するプログラム、マネジメント・医療倫理・リーダーシップ・コーチングを主体とするスキルアッププログラム、エクスターン支援プログラムを準備し、幅広い知識の涵養をはかります。これらのプログラムに参加することによるポイントに加え、教育経験、臨床経験、研究成果からなる蓄積ポイントにより学位論文を提出できる権利を獲得するDoctoral candidate制度を導入することとします。その後、Doctoral candidateは公開による予備審査を経て、学外協力者を含めた主査・副査による学位審査を受け、学位の授与とな



るカリキュラムを考えています。また、これまで学部教育中心に活動してきたFDを、その内容を大学院に特化したものに転換するとともに、FD委員、教員のスキルアップをはかりたいと考えています。本プログラムの特色として、

- ①大学院教育開発センターによるカリキュラム開発、到達目標の設定、成績管理を含め大学院教育の一元管理
- ②学生の配属を教員個人の指導になりがちな分野所属型からプロジェクト所属とし、複数指導体制による学際的教育の実施
- ③コースワーク、英語教育等の基礎教育の充実による基礎学力と基本技能の養成
- ④TA・RA経験、スキルアッププログラム、臨床実績をポイント化し、履修状況とともに判断し、学位論文を提出するための要件の規定 (Doctoral candidate)
- ⑤センターの下での厳格な成績管理ならびに公開制を原則とした学位審査の実施
- ⑥認定医・専門医資格取得のための高度な臨床技

術のカリキュラム展開と実績による認定書の授与

- ⑦学務情報システム「学生カルテ」によるポートフォリオを用いた履修・習得状況の把握
 - ⑧このプログラムは臨床志向の学生向けであるが、基礎研究者志向の学生、歯科医師免許を有しない学生にも応用可能
- があげられます。

この大学院教育支援プログラムはかなり高額な財政支援を受けることができますので、大学院教育環境の充実、大学院学生への経済支援を行えると考えています。研究科歯学系教授会としては、新たなコースワークの設置を含むカリキュラム開発に着手しており、医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻の教育の高度化・実質化を図りたいと考えておりますので、教職員のさらなる協力、また大学院学生諸君からの貴重な意見をお願い致します。なお、大学院教育改革支援プログラムのホームページも立ち上げています (<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/daigakuinGP/>)。

